

バラバラの数珠

karinomaki

心の崩壊

私は精神病患者です。ある人に追い詰められて発症したと自分では思っていますが、その考えを根底から変えてくれた先生に治していただきました。

その人は今でも私をズタズタにし続けています。心からバカにし、暴言を吐き、私はその人と会ったあと泣かないことはありません。

明日私は先生の診察なのですが、この話はしないつもりです。先生は、私に自制する心を教えてくれたから。いつまでも甘えてるんじゃない、と。

崩された枕

私は、その人から受けた打撃のために、枕をつぶし、数珠をちぎりました。完全に狂ってしまったわけではありません。この世界の宗教はもうないのだと思ったのです。

その人は、決して私を傷つけることが許されない立場の人です。私を誰よりわかってくれないといけない人です。しかし、その人は私を、発病しても、病院に入っても、踏みにじり続けました

。

愛する人の遺骨

そして、完全にネタバレになるのを防ぐためにこのような書き方をしますが、その人は私の最も愛していた人の遺骨をゴミ箱に捨てるのと同じ行為をしました。

私は錯乱し、大切なカード類を粉々に砕き、、枕をつぶし、数珠をちぎってしまいました。私は日本の神道を信じています。しかし、仏教やキリスト教はもうない！！と思ってしまいました。

私は徹底した偽善者に会ったことがあります。その人は優しくかったのに、私を病気と思って、狂っていると思ったとたん、私の相談したことを全て、いちばん言ってほしくないと言った人に全部話しました。その時その人がどんなに私を気持ち悪いと思っていたかわかります。

仏教やキリスト教が偽善を生むと思った私は、時々私を心配するそぶりを見せる、私を病気発症に追い詰めたその人までも偽善者だと思いました。そして、考えるより先に、めちゃくちゃなことをしました。

遺骨に降り注ぐ枕のつぶと数珠

つぶされた枕からは、白いつぶつぶがたくさん出ました。数珠の黄色い玉は美しさを保ったままころがりました。私は思わず、遺骨の代わりと思って持っていた、石のままのごつごつしたパワーストーンの上に、白い粒と数珠の玉をふりかけました。明らかに白い粒の方が多かったので、枕の全てをかけたのではありませんが、遺骨？は白い雪で埋まったように思えました。

私が発狂したときのこと

私は、思い出しました。あれも雪の日だったと。私の気が狂ってしまった日のこと。

私は、「その人」の心の暴力を受けていて、雪の中わめきながら家を飛び出していきました。愛する人は、家の中で眠っていました。今回の入院も、その人による心の傷がもとでした。家出した私は、床に倒れ、妄想の中ではホテルの床に倒れた私は雪に埋まっていた。そのとき、私はあんなに愛していた人、父の声を聞きました。「娘よ、このまま一緒に死のうか・・・。」

私は雪？に埋もれた遺骨を見て我に返りました。

枕をつぶしたのは、父の死を認めたくないのだと。数珠をこわしたのは父に成仏せず、そばにいてほしいからだ。

もうこの世に正しい宗教はないのかもしれない、いや、あるのかもしれない・・・偽善は、私のような、心に病を持つ人を間違ったやり方であわれみ、ばかにします。しかし、あの雪を思い出します。発狂した時と、家出したとき・・・。そして、父の遺骨？が教えてくれたこと、それは、宗教の正しさを説くこと以上に、救いが大切ということです。雪は、冷たい。しかし、あれほど美しい自然はありません。ぬくぬくした、自分だけは正しい、助かる・・・という極楽浄土の、偽善を生む宗教より、厳しさの中、自分を律する宗教、そして、美しい心を生む道德が必要だと思うのです。

人をうらんではいけない、君の病気は全てを、その人のせいにしたからなのだよと強く言って、私に泣かれながらも心を鬼にして私の病気と心を正して下さった先生の言葉が、何よりそのことを表していると思います。